



国立大学法人  
豊橋技術科学大学

# IT食農だより

発行元: 豊橋技術科学大学 先端農業・バイオリサーチセンター  
住所: 〒441-8580 愛知県豊橋市天伯町雲雀ヶ丘1-1  
TEL: 0532-44-6655 FAX: 0532-81-5108 E-mail: support@recab.tut.ac.jp

2022年12月15日  
No. 89

## 植物工場マネージャー第11期生・ IT食農先導士第7期生が開講

12月3日(土)に最先端植物工場マネージャー育成プログラム11期生、IT食農先導士養成プログラム(最先端土地利用型IT農業コース)7期生が開講し、植物工場マネージャー7名、IT食農先導士3名を迎えてプログラムがスタートしました。

開講式は、来賓として連携自治体、企



最先端植物工場マネージャー育成プログラム第11期生・IT食農先導士養成プログラム第7期生開講式(来賓・スタッフと)

業担当者が列席され、高山弘太郎先端農業・バイオリサーチセンター長挨拶、来賓の紹介、人材育成事業の概要説明及びスタッフ紹介がありました。また、受講生の自己紹介では、それぞれの受講動機や目標などの話があり、来賓の方々、出席者が興味深く耳を傾ける姿がみられました。続くガイダンスで受講上の注意事項等の説明を受けた後、早速講義が行われました。これから1年4ヶ月にわたるプログラムを通じ、共に学び合い、充実した時間を過ごすことを期待します。(文責:前田紀子)

## 最先端植物工場マネージャー10期生が先端施設研修の県外研修を行いました

11月10日(木)から11月12日(土)まで、最先端植物工場マネージャー10期生が県外の先進施設視察研修として、香川県及び愛媛県における植物工場や先端施設を視察しました。計8名が参加しました。

10日は(1)徳寿工業株式会社(香川県高松市)の①人工光型植物工場(リーフレタス)と②同社開発のクールサットハウス(施設外でミスト噴霧を行い、その空気を施設内に取り込み冷房する)におけるイチゴ栽培システムを見学しました。11日は(2)有限会社エス・エス・ケイ佐々木等氏(香川県木田郡三木町)からイチゴ経営状況(施設面積150a、労働力20名)の説明を受け、香川県開発の早生・低温結果性品種「さぬき姫」による環境負荷を軽減したイチゴ栽培

培を見学しました。その後、(3)香川県農業試験場(香川県綾歌郡綾川町)で①開発した品種(小麦「さぬきの夢2009」、イチゴ「さぬき姫」、米「おいでまい」、アスパラガス「さぬきのめざめ」、キウイ「さぬきキウイスイート」他、オリーブ「香オリ3号、香オリ5号」、モロヘイヤ「さぬきのヘイヤ」他)の説明を受け、②香川県が開発したアスパラガスハウス(直管パイプを使った通気性の良い低コストハウス)と③クールサットハウスと通常ハウスのトマト栽培比較試験等を見学しました。12日は(4)愛媛大学農学部(愛媛県松山市榎見)で植物工場システムコース愛媛大学緑化環境工学教育分野における研究(SPA)等の説明を受け、植物工場の見学を行いました。各視察場所では、多くの質問が熱心になされ、最新の栽培技術や経営等の知識を得ることができ、充実した3日間の研修となりました。(文責:山内高弘)



(有)エス・エス・ケイのイチゴ苗生産状況(11/11)



愛媛大学植物工場（トマト栽培）  
(11/12)

## 食農産業マッチング大交流会

先端農業・バイオリササーチセンターは、11月25日（金）に豊橋サイエンスコアのアトリウムで開催された「食農産業マッチング大交流会」（主催：食農産業クラスター推進協議会）に出展し、多くの方にお越しいただきました。本交流会は、食農産業クラスター推進協議会15周年の記念イベントとして、会員事業者の商品、活動を紹介するもので行っている人材育成事業の修了生の方達が開発した農産加工品（6次産業化商品）を展示しました。具体的には、①原田愛子氏（6次化1期生、東海食プロの会会長）「柿あん」、②中内田明子氏（6次化5期生）「野菜のDIP」、③鈴木美有希氏（6次化7期生）「柿チップ」、④藤城義久氏（6次化3期生）「あじ醤油、菜の花ドレッシング」、⑤永田晴敬氏（6次化6期

生、植マネ6期生）「タモギダケ」を展示しました。当日は、来訪者の方から、各商品に対して多くの問い合わせがありました。（文責：山内高弘）



食農産業マッチング大交流会  
での展示風景

## 技科大TECHフェスティバルにて、小中学生向け体験学習教室、植物工場紹介ツアーを実施



植物工場紹介ツアーの様子

2022年10月29日（土）に技科大TECHフェスティバルが開催されました。技科大TECHフェスティバルは、地域一般の方を対象とした技科大の魅力を紹介するイベントです。先端農業・バイオリササーチセンターとして、小中学生向け体験学習教室「光合成機能を見る！植物工場ではたらく植物診断ロボット」と植物工場紹介ツアーを企画、実施しました。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、事前予約制となりましたが、両企画とも定員を満たし好評をいただきました。（文責：熊崎忠）

## 旬の食べ物 イチゴ

学名：Fragaria × ananassa Duch-esne ex Rozier  
英名：Strawberry

イチゴはバラ科の多年草で、イチゴとして流通しているものは、ほぼすべてオランダイチゴ属の栽培種オランダイチゴです。栽培種のオランダイチゴは、北米原産のバージニアイチゴ (*F. virginiana*) と南米原産のチリイチゴ (*F. chiloensis*) の交雑によって作られたものです。一般に出回っているイチゴ品種は、栄養繁殖といつて、ランナーと呼ばれる匍匐枝を伸ばし、その先にできる子苗で増殖させます。しかし、この場合、増殖効率が悪く、親株が病害虫やウイルスに感染していると、それが子苗にも伝染してしまいます。近年、種子で増殖する種子繁殖型イチ

ゴ品種が育成され、注目されています。種子繁殖型品種は、栄養繁殖に比べ増殖効率がよく、種子を経由して伝染する病害虫やウイルスはほとんどないため、病害虫のいない優良種苗を効率よく得ることができます。三重県、香川県、千葉県と農研機構九州沖縄農業研究センターが共同で育成した「よつぼし」（2017年に品種登録）が有名ですが、それ以降、三好アグリテック（株）が「ベリーポップはるひ」、同社と三重県が共同で「ベリーポップすず」を育成しています（ベリーポップはるひ・すずは品種登録出願中）。種子繁殖型品種の登場によって、種苗供給体制が変わることに加えて、苗の育苗期間が大幅に短縮できることから栽培体系が大きく変わることが期待されています。（文責：熊崎忠）



イチゴ果実